

事業コード	H16-農-終-13			区 分	国庫補助・ <b>県単独</b>
事業名	ふるさと林道緊急整備事業			部 局 名	農林水産部
事業種別	単独事業(林道事業)			課室班名	森林整備課 林道班(tel)1945
路線名等	みつもりやま 三ツ森山			担当課長名	佐々木 誠
箇所名	平鹿郡雄物川町大沢			担当者名	主幹(兼)班長 小滝 光和
総合計画との関連	政策コード	N	政策名	豊かな自然と調和した個性あふれる農林水産業の振興	
	施策コード	5	施策名	豊富な森林資源の循環利用による林業の推進	
	目標コード	2	施策目標名	効率的な森林整備の推進	

1. 事業の概要

事業期間	H5 ~ H14(10年)	総事業費	42.45億円	国庫補助率	-	
事業規模	W=7.0m L=9,226m					
事業の立案に至る背景	<p>三ツ森山線は、雄物川町大沢地区を起点として西へ向かい地域の観光スポット「三ツ森山」(標高412m)の南を通り、東由利町の倉集落と茂沢集落を連絡し、同町老方地区に至る骨格林道である。この林道は、県道「横手東由利線」と国道「107号線」の間に位置し、両道のバイパス的役割を担うことができることから、災害等緊急時時の迂回路として期待される。</p> <p>横手平鹿の風景が眺望できる「三ツ森山」のハイキング利用者や郷土の霊峰として祀られている「金峰山」(標高373m)の参拝者等からアクセス道路の整備要望があり、開設が期待されていた。</p>					
事業目的	<p>集落と集落を連絡し、山村地域の振興と定住環境の改善を図る。</p> <p>林業労働条件の改善と森林施業範囲の拡大を図り、適切な森林管理に役立てる。</p> <p>「三ツ森山」「金峰山」等に繋がる、既存登山道と接続することにより、市民に森林利用レクリエーションの場を提供する。</p>					
事業費内訳	(単位:千円)					
事業内容		当初計画	最終	<b>最終コスト比較</b> $C / C = ( 1.04 )$  <b>最終費用便益比</b> $B / C = ( 1.53 )$		
	事業費	4,065,980	4,244,580			
	経費内訳	工事費	4,013,801			4,190,190
		用補費				
		その他	52,179			54,471
	財源内訳	国庫補助				
		県債	2,927,000			3,056,000
その他		813,196	848,916			
	一般財源	325,784	339,664			
事業内容	林道開設	林道開設				
事業終了後の問題点	路体掘削により発生した残土処理や法面の保護工に経費を要し、工事費が増額となった。					
住民満足度等の状況(事業終了後)	<p>満足度を把握した対象 <b>受益者</b> 一般県民 (時期: 年 月)</p> <p>満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット</p> <p>その他の方法 (具体的に 町が主催した事業説明会及び部落座談会)</p> <p>満足度の状況</p> <p>林道管理者(雄物川町、東由利町)および受益者から「森林へのアクセスが容易になり森林施業が楽になった。」「行楽シーズンには、三ツ森山登山者や金峰山参拝者が増えた。」「山菜等採取者が増えた。」「国道107号線の迂回路として利用ができ、安心感がある。」「林道からの景色がよく、新たな景勝地ができた。」等意見があった。</p>					
上位計画での位置付け	総合整備計画における施策「豊富な森林資源の循環利用による林業の推進」を支援する事業					
関連プロジェクト等	あきた21総合計画 「あきた21・木材産業活性化アクションプログラム」 「雄物川・子吉川流域森林・林業活性化アクションプラン」					

前回評価結果等	選定または継続 指摘事項	改善	見直し	保留または中止
	-			
	指摘事項への対応			
	-			
事業効果把握の手法及び効果	指標名	県全体における林内路網密度	データ等の出典	林道事業実績報告
	指標の種類	成果指標 業績指標		
	指標式	林道整備延長 / 民有林森林面積	把握の時期	15年 5月
	目標値 a	7.5 m / ha (平成22年度末)		
	実績値 b	5.8 m / ha (平成14年度末)		
	達成率 b / a	77%		
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由			
	-			
	具体的な把握方法と成果（見込まれる効果） データの出典含む			
	-			

## 2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容（特記事項）	評価結果
有効性	住民満足度の状況 A B C	A B C
	当該路線の事業申請者（町）が受益者等との意見交換において、公道および集落間の移動が容易になり、交通ネットワークが向上した旨、意見が出されている。	
	事業の効果 A 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満	
	設定期間内に完了したほか、計画交通量以上の通行(平均日交通量500台 520台)があり、連絡した集落間の受益者の満足度も高い。	
効率性	事業の経済性の妥当性 A B C	A B C
	B / C が 1.5 を上回っており、経済性の妥当性が高い。	
	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし	
	-	
総合評価	A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)	
	当初計画に対し経費が増大したものの事業計画にそって着実に施工が進み、各種イベントが開催されるなど、林道利用者状況および地域住民の満足度等から成果が上がっているものと判断でき、妥当性が高い。	

## 3. 評価結果の同種事業への反映状況等（対応方針）

山村の生活環境改善のため、住民のニーズに応えられる路線の実施を支援する。再生産可能な資源である森林の整備推進および生産コスト低減に寄与できる基盤施設として、土工量の縮減や再生材の利用等、コスト縮減に積極的に取り組み、効率的な事業施行に努める。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。